

小学六年

適性検査D

解答と解説

1

2015

年

問題1

長野・富山間は白馬岳や立山などの高山がならび、それらを通すトンネルを

つくることが難しいため。

問題3

X

イ

Y

イ

イ

問題3

(例)

け	き	物	た	は	問	題	に	ら	の	法	こ	を	れ	
る	ち	事	。	で	題	を	こ	し	で	私	か	ミ	て	筆
よ	ん	事	何	き	を	ま	れ	な	、	は	見	ス	し	者
う	と	を	終	な	そ	ち	ま	い	、	は	つ	と	ま	は
に	向	え	を	か	の	が	ま	よ	、	、	け	し	ま	、
し	き	ら	る	つ	ま	え	の	う	、	、	る	う	う	の
た	合	れ	場	た	ま	て	受	に	、	、	を	べ	て	ミ
い	つ	る	合	こ	に	き	驗	し	、	、	だ	き	て	ス
。	て	と	と	と	せ	た	勉	た	、	、	す	す	と	を
自	分	は	は	も	も	。	強	た	、	、	だ	姿	た	ミ
の	の	限	限	で	解	そ	と	し	、	、	と	勢	う	ス
成	長	ら	ら	き	き	う	思	ま	、	、	述	ベ	え	が
な	い	な	な	き	直	や	私	い	、	、	べ	持	で	す
長	に	の	の	よ	す	つ	う	し	、	、	た	ち	そ	ぎ
に	つ	の	の	う	こ	て	た	ま	、	、	て	れ	こ	る
な	で	の	の	に	と	ま	く	く	、	、	い	、	つ	と
な	な	な	な	な	で	ち	さ	さ	、	、	つ	、	よ	創
げ	、	ミ	ミ	な	、	が	ん	ん	、	、	い	、	、	性
て	ス	セ	セ	で	、	え	の	の	、	、	こ	、	、	は
い	ス	す	す	以	、	た	問	た	、	、	な	、	、	が
				300	に	き	前	200			が	100		失
														わ

(配点)

①問題1……5点 問題2……6点 問題3……5点 問題4……6点 問題5……15点

②問題1……5点 問題2……8点 問題3……50点

ただし、①問題3、②問題1はそれぞれ順不同完全解答

計100点

【解説】

【1】北陸新幹線の延伸をテーマにした問題

- 【問題1】 **B1** 情報を獲得する 比較 関係づけ
- 【資料1】の路線図を確認しながら、【資料2】の内容年表を読み取つて解答する問題です。

【資料1】から、糸魚川・富山間は長野・金沢間に位置していることがわかります。また、【資料2】より、北陸新幹線は工事と開業が同じ時期に行われており、年表中では、開業した区間が①高崎・長野間②長野・金沢間③金沢・敦賀間の3つに分かれていることがわかります。したがつて、長野・金沢間が開業した2015年に糸魚川・富山間も開業したと考えられます。

【問題2】 **B1** 情報を獲得する 特徴的な部分に注目する 関係づけ

- 【資料1】の路線図を確認しながら、【資料3】の地図を読み取る問題です。

【資料1】から、北陸新幹線は長野から富山を直線で結んでおらず、新潟県を経由して富山に向かっていることがわかります。【資料3】を見ると、長野・富山間には、白馬岳や立山といった日本アルプスに位置する3000m級の山が並んでいます。ここにトンネルを通して長野・富山間を直通で結ぶことは、高い地熱や圧力などの面を考えると非常に難しいため、【資料1】のような路線図になつたと考えられます。

内容等について（4点）

次のような視点で採点します。誤り1か所につき、2点の減点となります。誤りは、答案用紙に波線で指摘をしています。

説明が書かれていない場合は0点となります。

・北陸新幹線が上越妙高駅で大きく曲がつていている理由が書かれているか

・内容に過不足がないか

・文の論理構成、主語や述語の関係は正しいか、一文が途中で終わつていなか

・同内容の不要な反復がないか

形式等について（2点）

内容に関する観点が0点でない場合、次のような視点で採点します。誤り1か所につき、1点の減点となります。誤りは、答案用紙に直線で指摘をしています。

- ・誤字や脱字がないか
- ・文法的な誤りがないか
- ・語句や言葉の使い方に誤りがないか
- ・常体、敬体の混在がないか
- ・不適切な話し言葉の使用がないか
- ・消し残りなどで字が見づらくなかったり

【問題3】 **B1** 情報を獲得する 比較 関係づけ

- 【資料4】～【資料6】をもとに、空らんに入る言葉を答える問題です。

【資料4】から、4つの区間における開業前と開業後の所要時間を比べることができます。これを確認すると、イが最も短縮されていることがわかるため、**X**はイとなります。なお、アは【資料4】から判断することができないため、誤りとなります。また、【資料6】を見ると、石川県・首都圏間の移動者数は、開業前と開業後で年間345万人から520万人に増加

していますが、航空・バスはともに割合も低下しており、割合から実際の利用者数を計算すると、航空・バスの利用者はともに減少していることがわかります。したがって、**Y**はイであることがわかります。なお、アは開業前と開業後の鉄道の割合がともに100%なので変化はありませんが、利用者の合計は8万人から40万人に増加しているため誤りです。ウは、「移動者全体」の「増加率」を表しているので、石川県・長野県間と石川県・首都圏間の合計の増加数の変化から割合を考えることが必要です。石川県・長野県間は8万人→40万人なので500%の増加率、石川県・首都圏間は345万人→520万人なので約150%の増加率であり、ウは誤りであることがわかります。

問題4

B2**理由** **比較** **関係づけ**

【資料7】～**【資料9】**のグラフを読み取り、題意に沿つて説明をする問題です。

【資料7】から、航空に比べて新幹線の方が運休の発生日数が大幅に少ないことがわかります。また、**【資料8】**から、航空は台風の発生しやすい8月・9月、大雪の被害が出やすい1月・2月にかけて特に運休が多くなります。さらに、**【資料9】**から、一日あたりの運行本数は新幹線が航空の倍以上あり利便性が高いと言えます。所要時間は新幹線が約2時間30分、航空が約1時間となっていますが、これは羽田空港から小松空港までの時間となります。そのため、「東京から金沢へ訪れる場合」を考えると、羽田空港～小松空港～金沢までの移動時間がこれに加わります。したがって、実際の所要時間は1時間よりも大きくなると考えられます。これらの点に注目して、新幹線の利

用の長所を書きます。

内容等について（4点）

次のような観点で採点します。誤り1か所につき、2点の減点となります。誤りは、答案用紙に波線で指摘をしています。説明が書かれていない場合は0点となります。

- ・航空と新幹線を比べた新幹線の利用の長所について、資料から考えられることが書かれているか
- ・内容に過不足がないか
- ・文の論理構成、主語や述語の関係は正しいか、一文が途中で終わっていないか
- ・同内容の不要な反復がないか

形式等について（2点）

内容に関する観点が0点でない場合、次のような観点で採点します。誤り1か所につき、1点の減点となります。誤りは、答案用紙に直線で指摘をしています。

- ・誤字や脱字がないか
- ・文法的な誤りがないか
- ・語句や言葉の使い方に誤りがないか
- ・常体、敬体の混在がないか
- ・不適切な話し言葉の使用がないか
- ・消し残りなどで字が見づらくなかったか

問題5 **C1** **情報** **獲得する** **理由** **関係づけ**

【資料12】の課題について、**【資料10】**・**【資料11】**を参考にしながら解決方法をまとめた問題です。

【資料12】を見ると、金沢・敦賀間が開業したことによつて北陸新幹線が停車することになった小松市における特徴と課題

についてまとめられています。小松市は九谷焼などの伝統工芸品や温泉地、市街地といった歴史の魅力にあふれた区域があり、空の玄関口となる小松空港が近くにある反面、その観光資源をうまく市外の人々にアピールができるないこと、住民と観光客の交流が少ないことなどが課題として挙げられています。そうしたことへの解決策を、すでに新幹線が開業した地域の取り組み（**【資料10】**・**【資料11】**）を参考にしながら、答えをまとめしていく問題です。**【資料10】**・**【資料11】**からは、外国人観光客へのアピール、その地域がもつ伝統を生かすこと、インターネット上での積極的な発信などを読み取ることができます。これらを参考にして、自分の考えをまとめていきます。

*100字未満の場合、採点対象としません

この問題では、次のポイントを中心に見ます

内容等について（9点）

次のような視点で採点します。誤り1か所につき、3点の減点となります。誤りは、答案用紙に波線で指摘をしています。説明が書かれていない場合は0点となります。

・課題に対する具体的な解決方法、その方法が有効である理由について自分の考えが書かれているか

・内容に過不足がないか

・文の論理構成、主語や述語の関係は正しいか、一文が途中で終わっていないか

形式等について（6点）

内容に関する観点が0点でない場合、次のような視点で採点します。誤り1か所につき、2点の減点となります。誤りは、答案用紙に直線で指摘をしています。

・誤字や脱字がないか

・文法的な誤りがないか

・語句や言葉の使い方に誤りがないか

・常体、敬体の混在がないか

・不適切な話し言葉の使用がないか

・消し残りなどで字が見づらくなかったか

・一行目の一マス下げたところから書かれているか

・一マスに一文字が書かれているか

・正しいマス目の使い方かどうか

2 自分の意見を記述する問題

問題1

B1

情報を獲得する

具体化

関係づけ

ア 6ページ上段で、創造性やひらめきを育むためには「ミスをしないようにしてはいけない」「失敗のリスクを冒すことも時には必要」と説明されています。したがって、誤っています。

イ 6ページ上段で、上司や親などの立場にある人が「ミスをしないように」という圧力をかけると、部下や子どもはミスを隠そうとするようになるということが書かれています。人の上に立つ立場の人人がすべきこととして、「ミスを隠そうとしているか見極める」という内容については本文で触れられていません。したがって、誤っています。

ウ 6ページ下段で、「ミスを恐れて隠そうとする企业文化が存在すると、組織全体が成長する機会を失うことになります」と説明されています。また、続く部分で「組織全体でそれを学びの機会として捉えることが大切です」とも説明されています。したがって、正しいです。

エ 6ページ下段に「ミスをしたひとは反省しているものです。その上でさらに責めることは、ミスを隠す文化を助長してしまいます」とあります。したがって、正しいです。

オ 6ページ下段に「ミスが起こった際には、素早く共有し、適切な対策を講じることが必要です」と書かれています。ここでは事前に対策を考えることについては説明されていません。したがって、誤っています。

問題2

B2

具体化

関係づけ

置き換え

具体例は、筆者の言いたいこと（抽象的な内容）を読者によ

※この問題では、次のポイントを中心に見ます。
内容等について（6点）

- 誤り1か所につき、3点の減点となります。誤りは、答案用紙に波線で指摘しています。
 - 「小さな不具合やミスを放置する」「後々大きな問題になる」という内容が書かれているか
 - 内容が過不足なく書かれているか
 - 文の論理構成、主語や述語の関係は正しいか、一文が途中で終わっていないか
 - 同内容の不必要な反復がないか
- 形式等について（2点）
- 内容等が0点でない場合、次のような視点で採点します。誤り1か所につき、1点の減点となります。誤りは、答案用紙に直線で指摘をしています。
- 誤字や脱字がないか
 - 文法的な誤りがないか
 - 語句や言葉の使い方に誤りがないか

りわかりやすく伝えるために使われます。抽象的な内容は具体例の前後に書かれていることが多いので、前後の内容をていねいにおさえていきましょう。次の段落の先頭に「このように小さな不具合やミスがもとになつて、後々大きな問題になることは枚挙にいとまがありません」とあります。この部分が具体例で示したことを抽象的にまとめた部分です。「放置」という言葉については第五段落に「小さな問題が放置され」とあります。これらの部分を盛り込んでまとめましょう。

※「放置」という言葉が使われていない場合、採点対象としません。

- ・常体、敬体の混在がないか
- ・不適切な話し言葉の使用がないか
- ・消し残りなどで字が見づらくないか

- ・指定されたマス目の使い方で書かれているか
- ・「マスに一文字が書かれているか
- ・「マスに一文字が書かれているか

問題3 C2 理由 置き換え 推論

文章中で説明されているような「ミス」の取り扱い方について、あなたの意見を述べる問題です。

第一段落では、文章に書かれた「ミスをした後のあるべき対応の仕方」についてまとめます。

第二段落では、あなたの考えをまとめます。第一段落でまとめた筆者の考え方をふまえて、それに対する意見やあなたがしうと思うことをわかりやすく書きましょう。

第三段落では、第二段落で述べたことについての理由を書きます。第二段落で述べたことをふまえて、自分がどういう点に注意して「ミス」に向き合いたいかをわかりやすく伝えましょう。

※三百字未満の場合、採点対象としません。

※この問題では、次のポイントを中心に見ます。

内容等について (36点)

誤り1か所につき、6点の減点となります。誤りは、答案用紙

に波線で指摘をしています。

第一段落について

- ・「ミスをした後のあるべき対応の仕方」について本文で示された内容がまとめられているか
- ・内容が過不足なく書かれているか

・文の論理構成、主語や述語の関係は正しいか、一文が途中で終わっていないか

・「ミスをした後のあるべき対応の仕方」について、自分の意見や具体的に取りたいと思う行動が書かれているか

・内容が過不足なく書かれているか

・文の論理構成、主語や述語の関係は正しいか、一文が途中で終わっていないか

・同内容の不要な反復がないか

・内容が過不足なく書かれているか

・文の論理構成、主語や述語の関係は正しいか、一文が途中で終わっていないか

・同内容の不要な反復がないか

第三段落について

・第二段落に書いたことについての理由が書かれているか

・内容が過不足なく書かれているか

・文の論理構成、主語や述語の関係は正しいか、一文が途中で終わっていないか

・同内容の不要な反復がないか

形式等について (14点)

内容等が0点でない場合、次のような視点で採点します。1つ

目の誤りは6点の減点となります。2つ目以降の誤りは1か所につき、1点の減点となります。誤りは、答案用紙に直線で指摘をしています。

誤り1か所につき、6点の減点となります。誤りは、答案用紙

・誤字や脱字がないか

・文法的な誤りがないか

・語句や言葉の使い方に誤りがないか

・常体、敬体の混在がないか

・不適切な話し言葉の使用がないか

・消し残りなどで字が見づらくないか

- 原稿用紙の使い方に誤りがないか
- 指定された段落数で書かれているか